



1 本時の学習内容の「振り返り」を行うのは何のため？

生徒自身が、学習の達成度を味わい、学んだ内容を再確認するなど、次時につながる学習意欲と見通しをもつようにするためです。

中学校英語科においては、振り返りを通して、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして、自己の学習を自覚的に捉えることができるようにしましょう。



佐賀県教育委員会「授業づくりのステップ 1・2・3」及び山田誠志「全国の実践から学ぶ 中学校英語教育35のポイント」を基に作成

2 「振り返り」を行う時期や視点

(1) 本時

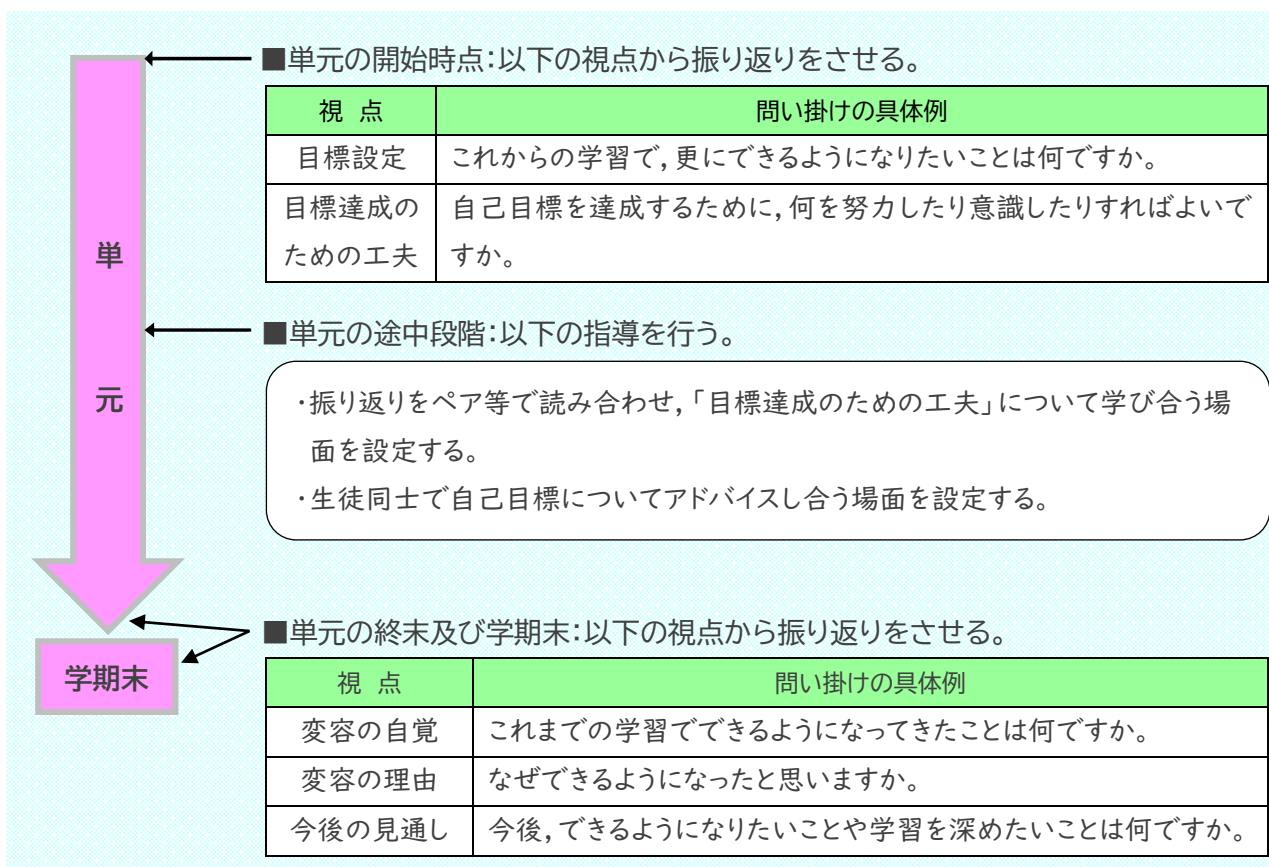
「振り返り」は、基本的に毎時間、授業の最後に行いましょう。

本時の目標に沿った言語活動への取組を通して、何ができるようになったのか、なぜできるようになったのかなど、「振り返り」の視点を設定し、生徒自身が自己評価できるように工夫をすることが大切です。

(2) 単元

単元において適宜、「振り返り」を行いましょう。

単元において身に付けさせたい資質・能力の育成に一定程度の時間が必要であることを踏まえると、単元目標に対する「振り返り」についても一定程度の時間を置いて設定するのがよいでしょう。具体的にどの段階で、どのように「振り返り」を行えばよいか、以下に示します。



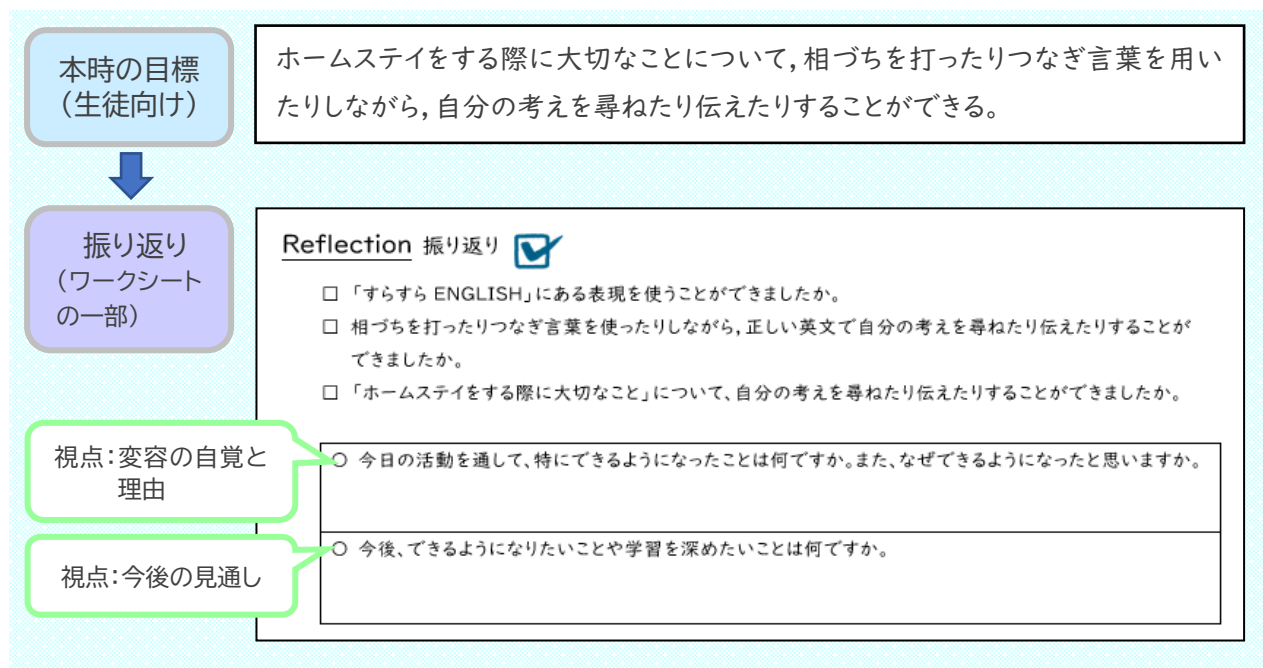
国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を基に作成

3 振り返りシートの工夫

(1) 本時の目標に沿った「振り返り」の視点

「振り返り」を行う際は、視点を明確にした振り返りシートを活用しましょう。

「振り返り」を書かせる際は、最初から自由記述にするのではなく、本時の目標に沿った「振り返り」の視点を具体的に示しましょう。



(2) 「振り返り」が困難な生徒に対しての個別の指導

「振り返り」が困難な生徒に対しては、以下の個別の指導を行うとよいでしょう。

・何を書けばよいのか分からない生徒

授業中や授業後に対話をしながら、できていることを伝えたり、生徒に質問したりして、より具体的に振り返りの視点をもたせる。

・どのように書けばよいのか分からない生徒

何ができた/できなかったのか、その理由は何だと思うかなど、「振り返り」で書く文章の構成について助言を行う。

